

指導教員によるコメント

黄明淑さんの研究は、中国人と日本人の勧誘談話の対照言語学的研究であり、将来は研究の成果を中国における教育に活かすことを目的といたしております。従いまして、今回、中国における大きな学会に参加し、研究者の方々と交流することを通して、問題意識が明確になるとともに研究に関する様々な具体的な示唆を得ることができましたことは、博士論文作成に向けて大きな収穫となりました。このような得難い機会を与えていただきましたことに指導教員として心より感謝申し上げます。

以下に具体的な成果とともにコメントを記します。

黄明淑さんは、平成 22 年度大学院教育支援プログラムの助成を受け、中国大連において 2010 年 9 月 24 日から 27 日にかけて中国で開催された「2010 年度中国日語教学研究会年会・第六回中日韓文化教育研究国際フォーラム」に参加し、「誘い表現における中日対照研究―誘う側の言語行為に着目して―」というテーマで研究発表を行った。

その結果、研究課題の設定の仕方、データの分析方法などに関して具体的な示唆を得ることができた。今後はその成果を活かして、修士論文で行った分析の精緻化を図り投稿論文に仕上げる予定である。さらに、博士論文執筆に向けては、新たなデータも収集する計画であり、今回の助成による研究の深化が期待される。

佐々木 泰子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）